園内研究会に参加してのご感想（一部抜粋）

【坂井市の保育園の先生】

・遊びのつながり、持続する遊びにするには

・みんなの時間の持ち方、進め方

この2つの事を学びたいと思い園内研究会に参加しました。

最初に感じたのは、遊びこめる環境が作られている事でした。

今、子ども達は何に興味があるのか、そのためにどういう環境が必要かという事に、目や耳を傾けていると感じました。また、先生方の子どもに考えさせる声かけに普段の自分の声かけを重ねることで、大きな違いがあると感じました。子どもに考えさせる同じ言葉でも、言葉の中にヒントを入れる事で子どもなりに考え行動していくのだと感じました。

遊びが広がるような声かけをしながら、子どもの遊びがさらに深まり、子どものやってみたい、作ってみたいという意欲をかきたてていました。1 つの遊びが次から次へと展開されていく姿を見て、私自身も目や耳を傾けていきたいと思いました。

みんなの時間では、子ども達がそれぞれに自分の思いを伝えていました。その中で先生は子どものつぶやきを拾い、その背景も伝えていました。

先生は制作物をただ見せるのではなく、工夫したところ、悩んだところも問いかけていました。「そうそう…。」「何でそうなったと思う？」と1つの疑問を話し合い、子どもが興味関心を持てるような環境を用意し、伝える姿も見られました。驚いたのはその場に座って話をするだけではなく、発表している子を主人公にして場所を変え、子どものつぶやきに疑問を投げかけたり、実際にみんなでやってみたりと充実したみんなの時間でした。

私自身、みんなの時間の持ち方に「これでいいのだろうか」と疑問を持っていたので、実際に保育後に先生と話す事ができ、これからの保育にとり入れていきたいと思いました。

午後からの研究会は、今日の遊びやこれまでのプロセスについてそれぞれの先生方が話し合い、意見交換をしていました。どの先生も自分の思いを話しており、また、自分のクラスだけではなく多くの子どもの姿を語り合っていました。見ていないところで自分の知らない子どもの姿を知ることができ、そこから見えてくる子どもの成長を感じることができる時間でもありました。

各クラスの情報共有の場でもあり、子どもの成長を語り合える場でもあり、自分の保育を振り返る場であると思いました。自分の思いや悩みを語り合い、先生同士が認め合うことで話し合いがより深いものになっていくのだと感じました。私自身、これからの話し合いの場で疑問を持って参加することで語り合いが深まるよう、心がけたいと思います。

【坂井市のこども園の先生】

学んだこと・今後自園の研修に生かしていくこと

ファシリテーターの先生の笑顔が場を和ませ、一人ひとりの語りにしっかりとうなずき共感されていました。子ども達とのみんなの時間と同じ表情であり、大人だろうが子どもであろうが、研究会であろうが遊びであろうが同じ空気を感じました。ここが語り合いの大切さだとも感じました。

素敵な教師の方々がたくさんいらっしゃいます。こんな環境の中であれば、幼児教育の質向上へもつながり全職員が同じ気持ちで同じ目標へと向かえるのだと感じました。自園も保育者を一人も、もらすことなく、温かい楽しい語り合いができる場作りをしていきたいと思いました。

また、語り合いが語り合いで終わらず、子どもも保育者も常に次につながる学びの芽を育み合い明日への意欲へとついなげていきたいです。子ども達と環境、環境と環境のつながりにより大きく成長していました。

子どもの姿、つぶやきを見逃すことなく、学びを見取り次への学びへと展開され、常に展開のサイクルが続いています。子どもの学びだけではなく教師が子どもから学ぶこと、気づかされることも多く互いが刺激し合い一緒に楽しみ遊びこむ大切さも学びました。この魅力あるやりがいのある姿勢を今後の保育教育に生かしていきたいと強く思いました。

金曜カンファレンスに参加してのご感想（一部抜粋）

【勝山市の公立幼稚園の先生】

今回初めて附属幼稚園のカンファレンスに参加させていただき、公開保育の後の研究会とはまた違った附属幼稚園の先生方の学びに向かう語り合いの場を知ることができた。

各年齢の遊びを見取り、それを語る。見取った遊びはその先生の教育観で「大切にしたい」という願いが必ず含まれていて、教師の配慮や言葉がけは子供たちの遊びの中で何らかの支えとなり、拡がっていく。教師の「願い」とは？これは教師自身の経験してきた知識や幼児の遊びの価値づけやその遊びの先にあるものの期待、それは人間性や感覚も含まれていて人としての優しさであり強さでもある。でもその願いは自分自身だけのものであり、果たしてそれが目の前の子供たちにとって正解なのか？そのことを自問自答するだけでは前には進まない。だからこそ、金曜カンファレンスのような、教師全員、自分の言葉で心を開いて語る必要がある。

附属幼稚園の先生方は全員相手の話を受け止め、自分自身の持っている力だけでなく、その人の持っている良いところ、視点や考え方を見つけ、そして自分の力と混ぜ合わせ、教育力を高めている、そんな感じがした。

各先生方がやろうとしていること、迷っていること、環境の設定、一人ひとりへの配慮、遊び方への配慮、言葉がけ、先生としてその場をどう対応するかなどすべにおいてこのように語り合っていくことで職員同士の理解が深まる。教師同士が理解し合い、信じ合い、子どもたちの姿を大切に見取り、その遊びを保障するからこそ、園全体で違った遊びが点在していても、その遊びが後々つながっていくのだと思う。

子どもたちが遊んでいる姿だけでなく、動き、言葉、表情すべてに対してどう捉えるか？その捉え方は自分の視点や価値観から見ている姿である。果たしてその視点や価値観はそれでよいのか？いつも悩むところである。

だからこそ、学び続ける教師でないといけない、そう思う。

遊びの保障、遊びを選ぶ保障、遊びを選ぶことができずに見ているだけでもいいという保障、子供たちの動きすべてを受け止める、何も無駄なことはない。一つ一つに意味があって育ちがある。それを理解できる、する、そしその育ちを支えるというのが幼児教育の現場にいる教師の仕事なのではないかと思う。

【おおい町のこども園の先生】

今回の研修に参加させていただき、自分の語る力が不十分であること、また園内研修を担当する上での自分自身の課題に気づくことができました。 まず、研修の中で、先生方が語り合う姿・内容に、見て、聞いているだけで圧倒されました。この中に自分が参加していても、うまく言葉が出てこないだろうとも感じました。

研修等で知ったことは、あくまで知識であり、そのことについてさらに振り返り、探求していくことで自分の学びとなると考えると、その不十分さを改めて感じました。一時間程度の短時間の中でも、深く語り合い、お互いに学び合うことができる環境であるのは、一人ひとりの先生方の学び・探求があって成り立っているものであると感じました。

日々の保育を振り返り、他者の視点を知り、価値観に触れるという時間がとても重要であり、そのなかで自分自身の学びが深まり、自分の言葉で語る力が身についてくるのではないかとも考えます。日々の業務に追われがちですが、時間をつくり出す工夫も必要であります。それだけ、語り合う時間、自分の言葉で語れる力は、必要であり、価値のあるものであると感じました。

次に、園内研修については、自園でも取り組んでいますが、他園の研修に参加させていただけたことで、自園の取り組みについての課題に気づくことができました。まず、受けとめてもらえるという環境があることで、立場・年齢関係なく自分の言葉で語り合える、安心できる雰囲気がありました。保育の中での、うまくいかなかったことや悩みを話される場面もありましたが、誰も自分の知識、経験で語ることがなく、相手の思いに共感しながら話が進んでいきます。相手の思いに寄り添って、話が進められていくからこそ得られる納得感あり、一方的な学びではなく、お互いに高め合うことにつながっていくのだと思います。